

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 1 部門第 2 区分

【発行日】平成 18 年 10 月 12 日 (2006.10.12)

【公開番号】特開 2005-66234 (P2005-66234A)

【公開日】平成 17 年 3 月 17 日 (2005.3.17)

【年通号数】公開・登録公報 2005-011

【出願番号】特願 2003-304086 (P2003-304086)

【国際特許分類】

A 4 5 D 40/24 (2006.01)

A 4 5 D 40/20 (2006.01)

【F I】

A 4 5 D 40/24 A

A 4 5 D 40/20 G

【手続補正書】

【提出日】平成 18 年 8 月 25 日 (2006.8.25)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

内径に螺旋溝を有する中継筒の両端に、回動可能にそれぞれ先筒 A、先筒 B を連結し、前端に化粧用備品を含む棒状化粧材を保持する保持部を備えた芯チャック部材 a を前記先筒 A 内に収容し、この先筒 A、芯チャック部材 a 及び先筒 A 側の前記中継筒内の螺旋溝で繰出機構 A を構成するとともに、前端に化粧用備品を含む棒状化粧材を保持する保持部を備えた芯チャック部材 b を前記先筒 B 内に収容し、先筒 B と芯チャック部材 b、先筒 B 側の中継筒内の螺旋溝で繰出機構 B を構成することを特徴とする棒状化粧材両軸繰出容器。

【請求項 2】

棒状化粧材 A 及び棒状化粧材 B のそれぞれの外形寸法が同寸法で形成され、前記繰出機構 A と繰出機構 B とが同一形状であることを特徴とする、請求項 1 記載の棒状化粧材両軸繰出容器。

【請求項 3】

中継筒は、両端開口孔付近内径に先筒 A 及び先筒 B を回動可能に連結する嵌合凹部が設けられるとともに、軸方向の内径ほぼ中央に底面が設置され、この底面よりそれぞれの開口孔方向に螺旋溝が形成されていることを特徴とする請求項 1 記載の棒状化粧材両軸繰出容器。

【請求項 4】

中継筒は、両端開口孔付近内径に先筒 A 及び先筒 B を回動可能に連結する嵌合凹部が設けられるとともに、内径軸方向にそれぞれのストローク長にわたる螺旋溝が形成されていることを特徴とする請求項 1 記載の棒状化粧材両軸繰出容器。

【手続補正 2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0008

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0008】

第 2 の発明においては、棒状化粧材 A 及び棒状化粧材 B のそれぞれの外形寸法が同寸法で

形成され、前記繰出機構 A と繰出機構 B とが同一形状である手段を講じたものである。

【手続補正 3】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0013

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0013】

第2の発明においては、棒状化粧材 A 1 及び棒状化粧材 B 1 のそれぞれの外形寸法を同寸法とすることで、繰出機構 A と繰出機構 B とを同一形状とすることが可能なため、先筒 2 部材、芯チャック部材 2 部材、中継筒 1 部材、射出成形金型 3 型でプラスチック部材を構成する、低価格な棒状化粧材両軸繰出容器を提供できる。

【手続補正 4】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0019

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0019】

第1実施例の棒状化粧材両軸繰出容器 1 に使用される棒状化粧材 A 1、及び棒状化粧材 B 1 は、ともに外径が 2 mm の寸法で製作されているため、先筒 10A と先筒 10B、芯チャック部材 30a と芯チャック部材 30b とを同一形状として形成される。

先筒 2 部材、芯チャック部材 2 部材、中継筒 1 部材、の計 5 部材により製作され、先筒、芯チャック部材、中継筒はそれぞれ射出成形によるプラスチック部材であるため、金型は 3 型にて棒状化粧材両軸繰出容器 1 が製作可能なことを、棒状化粧材両軸繰出容器 1 の特徴としている。

【手続補正 5】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0036

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0036】

第1実施例では、棒状化粧材繰出機構 A と棒状化粧材繰出機構 B を同一形状とするとともに、棒状化粧材外形寸法を棒状化粧材 A 1 と棒状化粧材 B 1 を同一形状としたため、先筒 10A と先筒 10B、芯チャック部材 30a と芯チャック部材 30b とを同一形状として射出成形金型 3 型、先筒部材 2、芯チャック部材 2、中継筒部材 1 の計 5 部材で棒状化粧材両軸繰出容器 1 を完成させていたが、棒状化粧材繰出機構 E 及び棒状化粧材繰出機構 D は、前記棒状化粧材繰出機構 A 及び B とは全く構成を異なったものとしている。

【手続補正 6】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0051

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0051】

本発明は、棒状化粧材両軸繰出容器であり、内径に螺旋溝を有する中継筒の両端に回転可能にそれぞれ先筒 A、先筒 B を連結し先筒 A 側には前端に棒状化粧材（化粧用備品）を保持する保持部を備えた芯チャック部材 a を収容し、前記先筒 A と芯チャック部材 a と先筒 A 側の中継筒内の螺旋溝で、繰出機構 A を構成するとともに、先筒 B 側に前端に棒状化粧材（化粧用備品）を保持する保持部を備えた芯チャック部材 b を収容し、前記先筒 B と芯チャック部材 b と先筒 B 側の中継筒内の螺旋溝で繰出機構 B を構成することを特徴としており、繰出機構 A と繰出機構 B とが同一形状であってもよく、また、全く異なる繰出機構 A、繰出機構 B としてもよくアイライナー、アイブロー、リップライナー、口紅等、また

はこれらの化粧を施す用具であるマスカラブラシ、チップ、リップブラシ等を同時にセットすることも出来、別々に摺動可能な便利な棒状化粧材両軸繰出容器を提供できる。

【手続補正 7】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0052

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0052】

本発明は実施の形態において、同一の棒状化粧材繰出機構 A と B（第 1 実施例）、異なる棒状化粧材繰出機構 E 及び棒状化粧材繰出機構 D（第 2 実施例）として繰出機構を紹介したが、繰出機構としてこれに限るものではなく、中継筒内の螺旋溝を利用した両軸の繰出機構であれば、本発明の範疇に属するものである。

【手続補正 8】

【補正対象書類名】図面

【補正対象項目名】図 5

【補正方法】変更

【補正の内容】

【図 5】

